日中関係史 I

科目ナンバリング HAA-201
選択 2単位

渡邊 公太

1. 授業の概要(ねらい)

日本と中国は地理的に近接した隣国同士であり、歴史的に見ても極めて長く関係を共有しています。長年、日本は中国を世界の中心として見る向きが強かったのですが、明治以降はその旧い秩序に対する挑戦を試みます。その結果、現代にいたるまで、日中両国は「友邦」と「敵国」の間を揺れ動く複雑な関係を継続しています。

本講義では、そんな現代の複雑な日中関係の原因となっている近現代の東アジアの歴史を学ぶことで、日中両国の政治家や官僚、一般国民たちが互いをどう解釈し、自らを定義していたかについて考えてみたいと思います。

2. 授業の到達目標

- ・国際社会の中での日本文化の位置づけに関心を持ち、国際的視野から日本文化を分析しようとする姿勢を持つ。
- ・近現代東アジア国際関係史の基礎知識を修得する。
- ・歴史的事象の因果関係を適切に説明できる。
- ・授業で学んだ知識を応用し、現代の東アジア問題を論理的に説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点: 30%
- ・学期末試験: 70%

4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定しない

参考文献

川島真・服部龍二編 『東アジア国際政治史』 名古屋大学出版会

筒井清忠編 『昭和史講義』1～3 ちくま新書

5. 準備学修の内容

授業ノートを読み返し、復習する。また授業で紹介する参考文献を読み、知識を広げる。

6. その他履修上の注意事項

積極的な質問を歓迎します。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 前近代の東アジア国際秩序
- 【第3回】 清朝と日本の開国
- 【第4回】 条約改正
- 【第5回】 日清戦争 I
- 【第6回】 日清戦争 II
- 【第7回】 日露戦争
- 【第8回】 日露戦争後の東アジア
- 【第9回】 第一次世界大戦期の東アジア—対華二十一か条要求と袁世凱帝制問題
- 【第10回】 第一次世界大戦期の東アジア—パリ講和会議
- 【第11回】 中国ナショナリズムと幣原外交
- 【第12回】 中国ナショナリズムと田中外交
- 【第13回】 満州事変
- 【第14回】 満州事変後の東アジア
- 【第15回】 総まとめ